

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270100461		
法人名	有限会社ケアシェルパ		
事業所名	グループホームあたがわ(B棟)		
所在地	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本1423-107		
自己評価作成日	令和1年5月21日	評価結果市町村受理日	令和元年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2270100461-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年5月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中にやりがいを見出し、生きがいを感じていただく支援に尽力しています。敷地内の畑で野菜を収穫した後、皆で野菜の仕込み作業を行ったり、何気ない作業を分担しそれぞれの利用者様が周りの役に立っていると感じあえる互恵関係が築かれています。地域の方々と会話の出来るよう外出支援を積極的に行っており、買物・図書館・散髪等、馴染みの関係を築き上げ挨拶を交わしています。ボランティアの方にも来館いただき、閉ざされた雰囲気を持ち拭き安楽な日常を過ごされています。地元の中学校とは総合学習の一環として定期的に生徒にお越しいただき利用者様との関係を育み、生徒への体験による主体的な学びに貢献しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人役員が中学校に出向いて認知症サポーター養成をおこない、その延長として実習訪問する中学生の来訪は、まるで彼氏のように肩に手をかけ写真に収まる女性利用者の姿もあり、暮らしに華やぎを与えています。また地域の人の応援も厚く、運営推進会議メンバーである社協職員と図書館長が「毎月交替で～」と声をかけあい、読み聞かせや紙芝居の楽しみを事業所に定着させてもいます。中学生が地域住民からもらい受けた梅の実が事業所に届き、それをジュースなどに加工し再び生徒や近隣に振る舞うというわらしべ長者的なご利益も長年続き、当事業所の持ち味を存分に現わすエピソードの一つです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関・事務所・各棟キッチン内に掲示し職員間で共有している。利用者様へ日々やりがいを与え生きがいのある暮らしを実践している。	例えば食事では箸立てを真ん中に置き、気がついた人、できる人が取分けるようにしており、「生きがいのある暮らし」を求めていることは、来客者のお茶出しを利用者主体におこなっている様子からも十分観えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	中学校との交流が続いており、ホームでチームで楽しんだり合唱の披露をしていただいている。音楽発表会にも招待され参加している。町立図書館のイベント時には参加している。地域のボランティアの方が定期的に訪れてくださり利用者様と交流している。	法人役員が中学校に出向いて認知症サポーター養成をおこない、その延長として実習訪問する中学生の来訪は、満面の笑みで写真に収まる利用者の姿もあり、生活に潤いを与えています。また地域の図書館が主宰する月次イベントへ出かけることも概ね定着しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の担当者や他施設の関係者と協力し、キャラバンメイトの活動にて講演をする事で地域の人々へ認知症についての理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様・町担当者以外にボランティアの方にも参加していただいている。事故報告後、どのように改善したかまで説明を行い評価していただいている。	「家族会及び地域のふれあい会」と名称を柔らかくする工夫もおこない、図書館の館長と傾聴ボランティアも参加してくださる運営推進会議は第66回を迎えています。近年課題としている「家族参加の減少」では、土日開催も視野に入れていきます。	
5	(4)	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の「認知症にやさしい町づくり連絡会」のメンバーとして地域包括支援センター職員や他事業所の方々と密に連携している。運営推進会議に出席いただき情報を提供している。	当事業所も発起人の一人となり、エスケープの捜索訓練は本年で5年目を迎えます。町民講座で認知症のレクチャーをおこなうなど、町からの依頼はできる限り応じています。一方行政も、「運営推進会議を土日でやりたい」との事業所要望に、協力を快諾くださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は施錠せずに、敷地内は自由に活動していただいている。外へ出て一緒に付き添い行動を共にする支援を行っている。「スピーチロック」や「ドラッグロック」についての研修を行い傲りをなくすよう努めている。	昨年の法改正では指針を作成し、運営推進会議の中で身体拘束廃止委員会を開催しています。研修については数名ずつ小分けでおこない、洩れなく実施できており、また職員には利用者中心の関わりを心得た言動が身につけていることを視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小規模多機能ホームの利用時から自宅での虐待がないか注意を払っている。「高齢者虐待防止マニュアル」を閲覧し法令や防止するための理解に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様は数名いらっしゃる。 弁護士の方、社会福祉士の方と密に連携を図りながら支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は事前に説明を行っており、不安な事や疑問点は、理解され納得して頂けるよう十分に話し合っている。加算等が発生する際には、ご家族様へ説明し理解して頂いたうえでやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	町内にお住まいのご家族様であれば管理者が月末にお伺いして近況を報告している。 遠方のご家族様とは電話やメールでのやり取りで様子を伝えるように努めている。	近くに住む8家族については日頃の様子を伝えながら、請求書を直接管理者から手渡しています。専門医の通院も日常の様子を知り得ている事業所が家族の代わりにおこない、家族の負担を軽減することにも尽力しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週ミーティングを行い職員の意見や提案を聞き、迅速な判断をして利用者様への対応に活かしている。 各ユニットの主任が職員の意見を伺い、代表者との話し合いを行っている。	職員に沢山話してもらうことを第一に、週1回のミーティングでは管理者は発言を控えています。家宅の事情で今月退職する職員が「皆さんに迷惑をかけたくないので」と、有給消化せずに最後の日まで働くというエピソードからも事業所の徳とチームワークの高さが滲みます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算の申請により、処遇の改善に努め、向上心をもっていただけの職場・環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は必要な研修費や職員の配置整備等の指示を行い、研修に参加出来る環境整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設のイベントには積極的に参加し交流することにより、職員のサービスの質の向上に繋げている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	小規模多機能ホームより入居が決まった方は、事前にグループホームを見学し職員とのコミュニケーションを進め、要望等伺ってから安心して入居していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入より、ご家族様が抱えている不安や困惑を取り除くため要望を伺い、ご本人様に添った生活ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能ホームより移られる方が多く、事前に小規模多機能ホームの過ごし方や援助の方法を把握し、移ってからも安心して過ごせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来る事に応じて、食器洗い・お盆拭き・洗濯物畳み・掃除等、それぞれ協力していただく事でより良い関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望の強い利用者様のご家族様には、不安解消のため電話を掛けていただけるよう協力していただいている。 受診には可能であればご家族様に対応をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	図書館を利用したり、いきいきサロンに参加し馴染みの人や場所の関係を断続させている。 買物時には、スーパーの店員に常連客として気軽に声を掛けていただいている。	美容師の娘さんがボランティアでカットに訪れたり、社会勉強のために時々通ってきていた孫が介護職を志して福祉の大学に進学したとのエピソードもあり、開かれた事業所であることが利用者の馴染みの関係継続を高めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で話しやすいようにテーブルの席を配慮し、隣りの棟へも行き来しやすく利用者様同士で関わり合えるよう支援している。 お盆拭きは利用者様同士で協力し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も要請があれば相談や支援に応じている。 入院中の方は病院の相談員より情報を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり日頃からコミュニケーションを取り日頃から希望や意向の把握に努めている。利用者様が心を許している職員は夜間帯に密に話を伺い相互理解に努めている。	隣接の小規模多機能事業所が始まって4年目となり、そこから当事業所へ入居した利用者も5割となり、入居前から情報把握が確かです。週1回のミーティングは1ユニット30分じっくり取組み、「こんなことを言っていた」「こうした方が本人は楽かも」といった協議が叶っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	小規模多機能ホームより移動される方が多く、引き継ぎによりサービスを断続し、生活歴はご本人様やご家族様より伺ってこれまで通りに暮らせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時に言動を記録し一人ひとりの把握に努めている。 特変事項は更に記録を残し、職員間で共有しケアの向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況を把握しモニタリングを行っている。ご本人様・ご家族様に希望を伺い、ミーティング等で意見やアイデアを出し合っ てケアプランを作成している。	サービス担当者会議では主治医に「居宅管理指導書による参加」を求めていたり、週1回のミーティングで現状をリアルタイムで把握し、第4表まで作成しており、介護計画のモデルケースのように真摯に取り組んでいることを確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動を記録に残し職員間で共有している。特変事項はミーティングで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	図書館・買物・イベントや床屋等、外出支援を積極的に行っている。傾聴ボランティアやカットボランティア等の外部の支援を受け入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用や地元スーパーへの買い物で地域の資源を活用している。 様々なボランティアの受け入れや、地元中学生との交流で利用者様は笑顔で楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の訪問診療の医師により体調管理を行っている。専門医の受診の指示があれば職員が付き添い受診し、ご家族様と連携をとっている。 月に2回訪れる訪問看護師とも連携し、急変時は24時間指示を仰げる体制にある。	2つの病院を協力医として、双方ともに月1、2回の訪問診療をおこなっています。立ち合いは当日勤務の職員がおこない、ミーティングで整理した情報を医師に伝え、「往診ノート」に医師の口伝記録を残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事前にミーティングにて利用者様の状態を話し合い、訪問看護師に伝えている。 小規模多機能ホームの看護師にもグループホームの利用者様について診ていただける環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療の医師の病院への入院が主なため、入院後も医師や看護師と話しやすい関係になっている。 ホームで出来る事と出来ない事の線引きをしっかりと伝え早期の退院に協力していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新規の入居者には予め看取りはできないことを説明している。 これまでの入居者の終末期にはターミナル計画書を作成し、今後起こり得る事やホームで出来る事等をご家族様に確認していただいている。	2つの協力医のうち1つは「看取りはおこなわない」、さらに1つは「今受け持っている人のみで、今後はおこなわない」ということになり、事業所としては今後看取りはできないとして家族との合意形成も済んでいます。	訪問看護事業所との連携等、看取経過に医師が常時入らなくてもおこなえるような方策を今後整えていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の初動の訓練は行っていないが、他職員への応援要請や小規模多機能ホームの看護師への連絡、訪問看護師への連絡は速やかに行い、必要であれば救急搬送を要請している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、防火管理者は消防訓練実施報告書を作成し、参加していない職員も指摘事項を共有している。 食料品・水を備蓄し、町の福祉避難所として登録している。	防火管理者が整備をおこない、当日対応する職員名を穴埋めするといった臨機なマニュアル的シートを作成しています。職員は「月1回何かを担当しよう」と奨励していて、その一環として備蓄を毎月防災係が棚卸しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックに関する社内研修を行っている。 一人ひとりに合った言葉かけを心掛けている。 地元の方言を交えての会話で利用者様と打ち解けている。	管理者からは「お年寄りにも分かるようにゆっくり話しましょう」と伝えており、実際フロアでも親しさ と丁寧さが折り重なった絶妙な距離感が垣間見られ、利用者を中心に置く職員の姿が印象的です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気軽に思いを伝えていただけるよう信頼関係を築いている。夜間に皆が寝てからじっくりと話しを伺うこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や食事・掃除の時間は決まっているが、それ以外の時間は自分のペースで過ごされている。 家に帰ろうと身支度をしている利用者様にも、もうじきむかえが来るからとペースを乱すことなく見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後は身だしなみを整え不快感がないように支援している。 個人で化粧品を所持されている方は、残量を把握し補充を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜の下準備をしたり、野菜の切れる方には切ってもらっている。箸を並べたり下膳やお盆拭き、テーブル拭きとそれぞれの利用者様が「役に立っている」と、やりがいを感じていただいている。	主業的な内容の3品にご飯、汁物、デザートと、見た目も味も多彩な食事が、職員の手作りで提供されています。時節料理や誕生会もおこなっており、また来月には利用者の親戚という寿司職員が目の前で握ってくださるというイベントが予定されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録している。 刻み食や食べやすい器にする等工夫している。 好物を用意したり、栄養補助食品を用いて栄養摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に口腔ケアを行っている。スポンジやガーゼを使い一人ひとりの状態に合わせてケアを行っている。 月に一度、歯科衛生士の訪問を受けている方もいらっしゃる指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を残しパターンを把握し、トイレで排泄出来るタイミングを計っている。調子が悪くなければ布パンツで過ごされている方もいる。	排泄チェックは業務日誌に記載され、声掛けをはじめとする対応に反映させています。便秘解消として雑穀米、オリゴ糖、センナ茶を取り入れ、またオムツメーカーの職員が訪れての講習は1年余り重ね、知識を深めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のためセンナ茶、オリゴ糖、ヨーグルト、雑穀米を毎日摂取して腸内環境を整えている。 便秘の際は、一人ひとりに添ったやり方で下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様に希望を伺い時間や順番を決めている。 月に一度、季節風呂の担当職員が中心に、お花・香草・果物・お茶等の変わり風呂を準備して楽しんでいただいている。	日常は週3日を目安として入浴があり、月1回変わり湯を実施しています。1月松、2月大根、3月よもぎ、4月桜、5月菖蒲、6月どくだみ、7月金魚草、8月ミント、10月ワイン、11月蜜柑、12月柚子とメニューは豊富です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっていないのでテレビを観ていたり読書をするなどしてからお休みになっている。 エアコンで温度の調整や加湿器を使用して快適な睡眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて利用者様の内服薬を管理し職員が共有できるようにしている。 薬の変更の際は申し送りを行い、経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理が出来る方にはやりがいとして手伝っていただいている。 レクリエーションを皆と一緒に楽しんだり、ボランティアの方との交流で気分転換を図っている。 利用者様の習字や塗り絵の作品を掲示している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物に同行していただいている利用者様は、店員から声を掛けていただいている。希望があれば近くのスーパーに職員と買い物へ行き、床屋の方とも馴染みになり直接伺って散髪を行っている。ご家族様と一緒に外出のイベントに出掛けることもある。	初詣、いちご狩りを年間外出と位置付け、こまめな散歩、買い物外出がおこなわれ、スーパーマーケットでは馴染みとなり声もかけてもらえます。隣にある小規模多機能事業所には大型の移動車輛があることも利点となっています。そのほか畑仕事、花壇での外気浴も盛んです。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所内金庫にて現金・貴重品をお預かりしており、一緒に出掛けて買い物をしている。同行出来ない方は、職員が購入した後日清算をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話を使い、職員が取り次いでいる。 年賀状が出せる支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレへの動線を分かり易く掲示し、スイッチの位置の掲示も大きく分かり易くしている。使用中の札を用意し、使用後には消臭スプレーを使い他の方に気配りしている。季節感のある掲示物を意識して行っている。	窓からの光が優しく注ぎ、紫陽花の鉢や行事写真に目が和み、居心地の良い共用空間です。「スイッチはここ」「トイレは右」と明示して分かり易くする工夫を随時おこない、また最近では本人の訴えに応じてトイレにL字型の手摺りを新たに付けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではテーブル席の他にソファを配置し、テレビを見るだけでなく洗濯物を利用者様同士で畳む社交場の役目になっている。玄関や野外にも椅子を用意し好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具を用意していただき本人の違和感を最小限に抑えるようにしている。月日を重ねた利用者様の居室にはホームでの思い出の品で満たされ一人ひとり個性ある居室で生活されている。	DVDコレクションで部屋をいっぱいにしたり、一番長く此処で暮らす利用者の居室には写真や小物が並ぶ一方で、閑散としている部屋もあり、その人その人といった在り様ですが、毎日利用者と職員で清掃しているというだけあって、大変清潔です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸には利用者様の顔写真と名前を掲示している。トイレのスイッチ等の分かりにくい箇所には大きな表示を出して自力で行えるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270100461		
法人名	有限会社ケアシェルパ		
事業所名	グループホームあたがわ(A棟)		
所在地	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本1423-107		
自己評価作成日	令和1年5月21日	評価結果市町村受理日	令和元年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2270100461-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年5月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中にやりがいを見出し、生きがいを感じていただく支援に尽力しています。敷地内の畑で野菜を収穫した後、皆で野菜の仕込み作業を行ったり、何気ない作業を分担しそれぞれの利用者様が周りの役に立っていると感じあえる互恵関係が築かれています。地域の方々と会話の出来るよう外出支援を積極的に行っており、買物・図書館・散髪等、馴染みの関係を築き上げ挨拶を交わしています。ボランティアの方にも来館いただき、閉ざされた雰囲気を感じ拭き安楽な日常を過ごされています。地元の中学校とは総合学習の一環として定期的に生徒にお越しいただき利用者様との関係を育み、生徒への体験による主体的な学びに貢献しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人役員が中学校に出向いて認知症サポーター養成をおこない、その延長として実習訪問する中学生の来訪は、まるで彼氏のように肩に手をかけ写真に収まる女性利用者の姿もあり、暮らしに華やぎを与えています。また地域の人の応援も厚く、運営推進会議メンバーである社協職員と図書館長が「毎月交替で～」と声をかけあい、読み聞かせや紙芝居の楽しみを事業所に定着させてもいます。中学生が地域住民からもらい受けた梅の実が事業所に届き、それをジュースなどに加工し再び生徒や近隣に振る舞うというわらわら長者的なご利益も長年続き、当事業所の持ち味を存分に現わすエピソードの一つです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関・事務所・各棟キッチン内に掲示し職員間で共有している。 利用者様へ日々やりがいを与え生きがいのある暮らしを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	中学校との交流が続いており、ホームでチームで楽しんだり合唱の披露をしていただいている。音楽発表会にも招待され参加している。町立図書館のイベント時には参加している。 地域のボランティアの方が定期的に訪れてくださり利用者様と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の担当者や他施設の関係者と協力し、キャラバンメイトの活動にて講演をする事で地域の人々へ認知症についての理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様・町担当者以外にボランティアの方にも参加していただいている。 事故報告後、どのように改善したかまで説明を行い評価していただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の「認知症にやさしい町づくり連絡会」のメンバーとして地域包括支援センター職員や他事業所の方々と密に連携している。 運営推進会議に出席いただき情報を提供している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は施錠せずに、敷地内は自由に活動していただいている。外へ出て一緒に付き添い行動を共にする支援を行っている。 「スピーチロック」や「ドラッグロック」についての研修を行い傲りをなくすよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小規模多機能ホームの利用時から自宅での虐待がないか注意を払っている。 「高齢者虐待防止マニュアル」を閲覧し法令や防止するための理解に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様は数名いらっしゃる。 弁護士の方、社会福祉士の方と密に連携を図りながら支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は事前に説明を行っており、不安な事や疑問点は、理解され納得して頂けるよう十分に話し合っている。加算等が発生する際には、ご家族様へ説明し理解して頂いたうえでやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	町内にお住まいのご家族様であれば管理者が月末にお伺いして近況を報告している。 遠方のご家族様とは電話やメールでのやり取りで様子を伝えるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週ミーティングを行い職員の意見や提案を聞き、迅速な判断をして利用者様への対応に活かしている。 各ユニットの主任が職員の意見を伺い、代表者との話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算の申請により、処遇の改善に努め、向上心をもていただける職場・環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は必要な研修費や職員の配置整備等の指示を行い、研修に参加出来る環境整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設のイベントには積極的に参加し交流することにより、職員のサービスの質の向上に繋げている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	小規模多機能ホームより入居が決まった方は、事前にグループホームを見学し職員とのコミュニケーションを進め、要望等伺ってから安心して入居していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入より、ご家族様が抱えている不安や困惑を取り除くため要望を伺い、ご本人様に添った生活ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能ホームより移られる方が多く、事前に小規模多機能ホームの過ごし方や援助の方法を把握し、移ってからも安心して過ごせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来る事に応じて、食器洗い・お盆拭き・洗濯物畳み・掃除等、それぞれ協力していただく事でより良い関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望の強い利用者様のご家族様には、不安解消のため電話を掛けていただけるよう協力していただいている。 受診には可能であればご家族様に対応をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	図書館を利用したり、いきいきサロンに参加し馴染みの人や場所の関係を断続させている。 買物時には、スーパーの店員に常連客として気軽に声を掛けていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で話しやすいようにテーブルの席を配慮し、隣りの棟へも行き来しやすく利用者様同士で関わり合えるよう支援している。 お盆拭きは利用者様同士で協力し合って行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も要請があれば相談や支援に応じている。 入院中の方は病院の相談員より情報を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり日頃からコミュニケーションを取り日頃から希望や意向の把握に努めている。 利用者様が心を許している職員は夜間帯に密に話を伺い相互理解に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	小規模多機能ホームより移動される方が多く、引き継ぎによりサービスを断続し、生活歴はご本人様やご家族様より伺ってこれまで通りに暮らせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時に言動を記録し一人ひとりの把握に努めている。 特変事項は更に記録を残し、職員間で共有しケアの向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況を把握しモニタリングを行っている。ご本人様・ご家族様に希望を伺い、ミーティング等で意見やアイデアを出し合っ てケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動を記録に残し職員間で共有している。特変事項はミーティングで話し 合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	図書館・買物・イベントや床屋等、外出支援を積極的に行っている。傾聴ボランティアやカットボランティア等の外部の支援を受け入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用や地元スーパーへの買い物で地域の資源を活用している。 様々なボランティアの受け入れや、地元中学生との交流で利用者様は笑顔で楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の訪問診療の医師により体調管理を行っている。専門医の受診の指示があれば職員が付き添い受診し、ご家族様と連携をとっている。 月に2回訪れる訪問看護師とも連携し、急変時は24時間指示を仰げる体制にある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事前にミーティングにて利用者様の状態を話し合い、訪問看護師に伝えている。 小規模多機能ホームの看護師にもグループホームの利用者様について診ていただける環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療の医師の病院への入院が主なため、入院後も医師や看護師と話しやすい関係になっている。 ホームで出来る事と出来ない事の線引きをしっかりと伝え早期の退院に協力していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に予め重度化から終末期についてホームで行えることを説明している。 終末期にはターミナル計画書を作成し、今後起こり得る事やホームで出来る事等をご家族様に確認していただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の初動の訓練は行っていないが、他職員への応援要請や小規模多機能ホームの看護師への連絡、訪問看護師への連絡は速やかに行い、必要であれば救急搬送を要請している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、防火管理者は消防訓練実施報告書を作成し、参加していない職員も指摘事項を共有している。 食料品・水を備蓄し、町の福祉避難所として登録している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックに関する社内研修を行っている。 一人ひとりに合った言葉かけを心掛けている。 地元の方言を交えての会話で利用者様と打ち解けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気軽に思いを伝えていただけるよう信頼関係を築いている。夜間に皆が寝てからじっくりと話しを伺うこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や食事・掃除の時間は決まっているが、それ以外の時間は自分のペースで過ごされている。 家に帰ろうと身支度をしている利用者様にも、もうじきむかえが来るからとペースを乱すことなく見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後は身だしなみを整え不快感がないように支援している。 個人で化粧品を所持されている方は、残量を把握し補充を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜の下準備をしたり、野菜の切れる方には切っただいている。箸を並べたり下膳やお盆拭き、テーブル拭きとそれぞれの利用者様が「役に立っている」と、やりがいを感じていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録している。 刻み食や食べやすい器にする等工夫している。 好物を用意したり、栄養補助食品を用いて栄養摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に口腔ケアを行っている。スポンジやガーゼを使い一人ひとりの状態に合わせてケアを行っている。 月に一度、歯科衛生士の訪問を受けている方もいらっしゃる指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を残しパターンを把握し、トイレで排泄出来るタイミングを計っている。調子が悪くなければ布パンツで過ごされている方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のためセンナ茶、オリゴ糖、ヨーグルト、雑穀米を毎日摂取して腸内環境を整えている。 便秘の際は、一人ひとりに添ったやり方で下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様に希望を伺い時間や順番を決めている。 月に一度、季節風呂の担当職員が中心に、お花・香草・果物・お茶等の変わり風呂を準備して楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっていないのでテレビを観ていたり読書をするなどしてからお休みになっている。 エアコンで温度の調整や加湿器を使用して快適な睡眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて利用者様の内服薬を管理し職員が共有できるようにしている。 薬の変更の際は申し送りを行い、経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理が出来る方にはやりがいとして手伝っていただいている。 レクリエーションを皆と一緒に楽しんだり、ボランティアの方との交流で気分転換を図っている。 利用者様の習字や塗り絵の作品を掲示している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物に同行していただいている利用者様は、店員から声を掛けていただいている。希望があれば近くのスーパーに職員と買い物へ行き、床屋の方とも馴染みになり直接伺って散髪を行っている。ご家族様と一緒に外出のイベントに出掛けることもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所内金庫にて現金・貴重品をお預かりしており、一緒に出掛けて買い物をしている。同行出来ない方は、職員が購入した後日清算をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話を使い、職員が取り次いでいる。 年賀状が出せる支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレへの動線を分かり易く掲示し、スイッチの位置の掲示も大きく分かり易くしている。使用中の札を用意し、使用後には消臭スプレーを使い他の方に気配りしている。季節感のある掲示物を意識して行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではテーブル席の他にソファを配置し、テレビを見るだけでなく洗濯物を利用者様同士で畳む社交場の役目になっている。玄関や野外にも椅子を用意し好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具を用意していただき本人の違和感を最小限に抑えるようにしている。月日を重ねた利用者様の居室にはホームでの思い出の品で満たされ一人ひとり個性ある居室で生活されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸には利用者様の顔写真と名前を掲示している。トイレのスイッチ等の分かりにくい箇所には大きな表示を出して自力で行えるように工夫している。		